

市民生活に密着した学会活動 — 土木ふれあいフェスタ in 広島 —

去る12月20日(日)、広島市のエール
N エール地下広場(広島駅地下)にて、

「土木ふれあいフェスタin広島」が開催された。主催はコ
ンサルタント委員会市民交流研究小委員会、
4月に秋田市で開催した市民交流会に引き
続き、2度目の開催である。

今回は、国交省中国地方整備局、広島県、
広島市の後援と地元NPO法人州都広
島を実現する会の協力を得て、インターネッ
トを利用した防災Webコーナーやパネル展
示(土木の紹介、山口防府災害報告、太田川
についての紹介、橋梁国際コンペ作品など)、
体験広場(液状化装置やペットボトルを使っ
た液状化実験)、図書・ビデオ紹介コーナー

土木ふれあいフェスタ in 広島

12月20日(日) 11:00 ~ 15:00

広島駅 エールエール地下広場
入場無料(事前申込は不要)

主催: 社団法人 土木学会コンサルタント委員会
後援: 国土交通省中国地方整備局、広島県、広島市
協力: NPO法人州都広島を実現する会

～くらしと安全を支える土木～

体験ひろば

地震のときに、
地面が水のように
トドロクになるのを
見たことがありますか?
どうして起きるのか、
実験してみてください!

防災 Web コーナー

みなさんの家、学校、職場の
まわりの防災情報を
インターネットを
使って調べてみよう!

クイズラリー

会場にちらばる
クイズに挑戦!
答えは、イベントに
参加して見つけてね。

クイズに答えて
景品をもらおう!

パネル展示

くらしと安全を
支える土木を
紹介します。

ビデオ上映

「アニメ 水とたた
かった戦国武将」
などを上映します。

図書コーナー

ドラえもん、
コナンの土木の
世界を案内します。

表彰式 (12:30～)

図画コンクール表彰式
土木遺産認定授与式

図1 イベント案内ちらし

広島駅の商店街の
ある地下広場で、多
くの人が行き交う場
所であったこと、ク
リスマス前の日曜日
とあつて、親子連れや
お孫さんを連れたい
じいちゃん、おばあ
ちゃんなど大勢の
方々が訪れてくれた。
前回同様、液状化現
象実験装置(砂と水



写真1 展示・クイズラリーの様子



写真2 イベント会場全景

の入った箱を振動させることで、液状化現象
を視認できる装置)は非常に人気が高く、人
がとぎれることがなかった。また、展示パネル
の内容をクイズにして三者択一で解答する
形式のクイズラリーでは、小さな子どもから
お年寄りまで、熱心に取り組んでおり、スタッ
フが展示の内容に関する質問を受けたりす
る光景も見られた。

来場者数は220名あまり、大人向けア
ンケート回収数155通、子ども中心のクイ
ズラリー解答用紙172枚にも、多くの意
見・感想が記述されていたのが大きな特徴
である。なかには「トンネルと橋ができ、実家
に簡単に行けるようになった。今日も自転車
で来た」という83歳の女性の記述もあった。

新聞社や地元のケーブルテレビの取材も

当日は1限目に講演とビデオ上映が、2
限目に体験型実験が行われた。講演では本
間委員(NEXCO東日本)より「橋のいな
し」と題し、橋の形式や構造、役割について
実務を通した臨場感あふれるわかりやすい
解説が行われた。ビデオ上映では橋づくりの
素晴らしさを感じてもらうために、関西国
際空港連絡橋の架設工事における大ブロッ
ク架設の様子が映像で紹介された。続く体
験型実験では電本、浅井両氏(NEXCO
総研)・北原委員(関東学院大学)・永田委
員(名古屋工業大学)によって、「アーチを

「公開講座 橋の不思議」を 開催

去る2009年11月24日(火)、横
浜市の関東学院六浦高校で、物理
選択クラスの高校2年生24名を対象にした
「公開講座 橋の不思議」が開催された。主
催は構造工学委員会、NEXCO総研
に共催として企画いただいた。

あり、2回目の市民交流会も大成功といえ
よう。学会活動における市民交流とは、学術
研究の成果や行政の情報をも市民の立場・視
線でもわかりやすく発信することがその第一
歩であることを実感した。

今後このような地道な活動を続けてい
くつもりである。

(榎木洋子(コンサルタント委員会市民交流研
究小委員会))

作ってみよう」「重ねはりに乗ってみよう」
「壊さずに内部を調べよう」と題する3種類
の実験を生徒たちとともにを行い、橋の不思議
を実際に体験する機会を提供した。

授業後、アンケートを実施し、橋に対する
印象の変化、興味、理解のしやすさなどに
ついて尋ねたところ、大半の生徒より好評
の回答をいただき、この企画は成功であった
といえる。これからもこのような活動を継続
し、若い世代や一般市民の橋をはじめとする
土木構造物に対する理解を深める一助と
なれば幸いである。

最後にこの公開講座にご協力いただいた
関係各位に厚く感謝の意を表する。

※今回の公開講座の内容とアンケート結
果の詳細については、構造工学委員会の
ホームページ([http://www.jsce.or.jp/
committee/struct/framepage2.htm](http://www.jsce.or.jp/committee/struct/framepage2.htm))で



写真1 体験型実験の様子

公開を行っている。

(正会員 永田和寿(構造工学委員会・運
営小委員会 名古屋工業大学))

「コンクリート技術に関する ギリシャー日本ジョイント セミナー」が開催される

2009年11月20日にギリシャのア
テネにおいて、Technical Chamber
of Greeceと土木学会のコンクリート技術

に関するジョイントセミナーが開催された。

土木学会コンクリート委員会では、過去に台
湾、モンゴル、韓国、ベトナム、スウェーデンで
ジョイントセミナーを行っているが、欧米諸国
と密接な協力関係を築くため、昨年のス
ウェーデンに引き続きヨーロッパでジョイン
トセミナーを開催した。

セミナー開会式では、ギリシャ特命全権大使
の北村氏による挨拶が行われ、ギリシャと日本
の強い協力関係に基づいてセミナーが行われた
ことを感ずることができた。今回のジョイント
セミナーでは、テーマを「New developments in
Technology and Standards for Reinforced
Concrete in Europe and Japan」と設定し、
6件の発表が行われた。日本からは塚孝司氏
(香川大学教授)がリサイクルコンクリートの現
状と将来展望について、下村匠氏(長岡技術科
学大学准教授)が土木学会の鉄筋定着・継手
とスプレッド鉄筋に関する指針(案)の概要につ
いて、中村光氏(名古屋大学教授)がコンクリー



写真1 セミナーの主な参加者

ト標準示方書の耐震性能照査の考え方と近
年の耐震技術の進歩についての、3件の発表が
行われた。ギリシャの方からは日本の技術に関
して多数の質問が出された。

一方、ギリシャからは、コンクリート構造
に関するEuropean StandardおよびEuro
Codeの概要とギリシャへの適用について、ギ
リシャの技術者向けに発表が行われた。ヨー
ロッパ基準の内容に関する質問とともに、ギ
リシャにおける位置づけについて活発な意見
交換が行われ、日本においても過去にあった
ように、国際基準や地域基準を導入する際
の技術者の意識の混乱などが感じられた。

なお、本ジョイントセミナーは、公益信託土木
学会学術交流基金による助成を受け、実施さ
れたものである。ここに記して謝意を表する。
(正会員 中村光(名古屋大学大学院 工
学研究科))

建設マネジメントおよび 契約管理セミナーの開催

2009年9月21日、ネパール国カ
トマンズで、ネパール技術者協会と土
木学会の共催で「建設マネジメントおよび契
約管理セミナー」が開催された。本ジョイン
トセミナーは、公益信託土木学会学術交流
基金による助成を受け、実施されたもので
ある。

セミナー当日は、ネパール国内の社会基盤
整備に関連するすべての政府機関、国際援助
機関、コントラクター、コンサルタン、会計検
査院、大学、技術者協会などから約70名の参
加があった。

セミナーではネパール側参加者からの1講
演を含む六つの講演が行われた。土木学会か
らは草柳俊二氏(高知工科大学教授)、ラジェ
ンドラ・ニラウラ氏(Sunrise Engineering
& Management Consultants)、浜田成一氏
(大成建設)、五艘隆志氏(高知工科大学講
師)が講演を行い、ネパール側からはMugai A.
Viada氏(ネパール建設業協会)が講演を行っ
た。講演は「日本建設産業における契約管
理」、「日本における公共工事標準請負契約
約款」、「日本におけるトンネル工事のマネジ
メント」、「建設工事の生産性管理への情報技
術活用」、「日本における契約管理教育プロ
グラム」、「ネパール建設産業の概要」といった
内容であり、質疑応答では活発な議論が行
われた。また、草柳教授が講演した日本の建



写真1 セミナー会場の様子

設マネジメントと契約管理教育プログラムに
対して、ネパール側参加者からは特に高い興
味が示された。

ネパールでは社会基盤整備・復興が急務
であり、同国の建設技術者には総合的な契
約管理の知識と技術が求められることとな
る。しかしながら、現状では同国内において契
約管理の教育を受ける機会はない。セミナー
後、ネパール建設業協会と建築・エンジニアリ
ング系コンサルタント業協会および複数の大
学がネパール国内での契約管理教育プログラ
ム構築の意思を表明するとともに、支援を要
請してきている。本セミナーはネパール側、日
本側参加者の両方にとってきわめて有意義
なものであったと考えている。

(正会員 五艘隆志(高知工科大学))

カリフォルニア大学デービス校 カヴァス教授が2009年 ベン・テ・チヨウ賞を受賞



カリフォルニア大学デービス校(C
Davis)のカヴァス教授(M. Levent
Kavas)が2009年ベン・テ・チヨウ賞(2009
Ven Te Chow Award)を受賞した。ベン・
テ・チヨウ賞はアメリカ土木学会とその特別
機関である環境・水資源研究所が授与する
水文工学分野における最高位の賞であり、研
究、教育または実務において生涯を通じた重
要な功績に対して贈られる。

今回の受賞は、土木分野で水文気象の研究
を開拓した業績とアメリカ土木学会水文工
学会誌(Journal of Hydrologic Engineering)
創設編集長としての業績の二つが特に高く評
価された。水文気象の研究は1991年から
日米科学技術協力協定の下で日本国と始め
た共同研究を発端とする。また、水文工学論
文集に当学会会員の論文が多数掲載されて
きたのは、カヴァス教授が設定した海外からの
投稿論文を積極的に掲載する編集方針によ
る。また、過去15名以上の当学会会員を(C
Davis大学院生または研究生として受け入れ
指導した実績、1998年の第42回水理講演
会での基調講演等日本国内での数多くの講
演による当該分野の最新技術情報の提供の
実績をはじめとする国際貢献も評価された。

受賞にあたり、カヴァス教授は「この受賞は
日本との交流なしには成し遂げられなかった

だろう。過去私が指導したさまざまな国から
来た学生のなかで、日本人は最も勤勉な国民
だと思ふ。日本との人的交流によってもたらさ
れるものは、日米双方の研究グループにとって
大変有益であったと思ふし、今後その重要
性は変わらないであろう」と述べている。

(正会員 大原憲明)

(カリフォルニア大学デービス校)

土木学会誌についてのご意見、ご感想、お問合せや
各コーナーへの投稿、掲載記事などの詳細情報は
土木学会誌ホームページをご覧ください

<http://www.jsce.or.jp/journal/>

土木学会誌

検索